

第 22 回 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時： 令和 4 年 11 月 16 日（水） 13:00～15:00

1. 設楽ダム猛禽類検討会の経緯と役割

- ・これまでの検討会経緯等について報告した。

2. 令和 4 年（2022 年）繁殖シーズンの調査結果

- ・クマタカ A ペア（以下、A ペアと言う）は、コアエリアの南側に新規営巣地を設け、前年シーズンより高利用域が南側へ広がったこと。また巣内抱卵まで確認したが、繁殖途中で失敗したことを報告した。
- ・クマタカ B ペア（以下、B ペアと言う）は、前年シーズンと変わらず既知営巣地周辺にて繁殖行動を行い、行動圏に大きな変化はなかったこと。また交尾まで確認したが、繁殖途中で失敗したことを報告した。
- ・クマタカ C ペア（以下、C ペアと言う）は、コアエリア東側にある直近の既知営巣地周辺で確認され、また雌個体の入れ替わりを確認したが、繁殖行動は確認されなかったことを報告した。またそれより西側のエリアで別ペアの生息を確認したが、令和 2・3 年繁殖シーズンに確認されたペアは、クマタカ C ペアとは別ペアとして整理することについて了解を得た。
- ・その他猛禽類として、事業地内にてサシバ 2 つがいの巣内雛、及びハチクマの餌運びの様子を確認したことを報告した。

3. 令和 4 年（2022 年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等実施結果

- ・コアエリア内で実施された工事に対し、監視調査を行った。実施された全工事においては、低騒音・低振動の建設機械の使用、工事用車両のアイドリング、作業員や工事用車両の営巣地付近への不必要な立ち入り制限を行った。また造巣期～巣内育雛期となる 1～6 月の間に直近の営巣地から 500m 内において騒音の大きい工種あるいは伐採を行う予定の工事については、前述の対応のほか追加でクマタカへの工事の影響を低減する環境保全措置の必要性を工事個別に検討した結果、対象となった 3 工事のうち 2 工事において必要な措置として一部工法の見直しや一部伐採時期の調整などを実施した。それらの結果は以下のとおり、忌避・警戒行動は確認されなかったことを報告した。

① A ペアは、従前から行われていた工事が視認できる箇所に新規営巣地を設け、工事を気にすることなく交尾や抱卵が行われたこと、また工事現場上空を通過し、他個体へ誇示行動を行っている様子などを確認した。

② B ペアは、従前から行われていた工事を気にすることなく交尾が行われたこと、また工事が視認できる範囲上空を、工事を気にすること無く移動している様子などを確認した。

③ C ペアは、コアエリア内にて実施された工事は無かった。

4. 令和4年(2022年)繁殖シーズンにおける繁殖成否の要因分析

- ・クマタカ各ペアの繁殖に至らなかった要因について、モニタリング調査及び林内踏査の結果等より、以下のとおり分析したことを報告した。
 - ① Aペアでは、抱卵中の雌個体が、他個体への誇示行動で複数回、巣を離れていたことで抱卵時間が短くなり、孵化まで至らなかった可能性があるものと考えた。
 - ② Bペアでは、直近の既知営巣木が、枯死により樹冠部の青葉が無くなったことで営巣環境が適さなくなり、産卵に至らなかった可能性があるものと考えた。
 - ③ Cペアは、雌個体が入替わったため、新しいペアの繁殖実績の確認ができていないことから、繁殖活動を継続しなかった要因は不明であった。
- ・要因については、事務局の分析以外にも、例えば、加齢による繁殖能力の低下、捕食者による被害、卵の保温不足、抱卵期の冷たい長雨の影響などや、あるいはそれらが複合的に影響した結果である可能性なども考えられるが、特定は困難であり、今後も工事中のモニタリング調査により情報を蓄積し、その知見に基づいた要因を考察することが重要であるとの意見をいただいた。

5. 令和5年(2023年)繁殖シーズンの調査計画(案)

- ・令和4年繁殖シーズンの調査成果を踏まえ、令和5年繁殖シーズンはすべてのペアで繁殖及び営巣地を替える可能性が高いことから、抱卵期前までの早期の営巣地特定を行う方針について了解を得た。

6. 令和5年(2023年)繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等計画(案)

- ・令和5年繁殖シーズンは、コアエリア内で実施予定の工事に対し、当初は監視調査のみを行っていき、営巣地の特定や、工事計画の変更などが確認され次第、工事個別措置の検討の必要性をその都度確認し、該当あれば速やかに検討を行うことについて了解を得た。

7. ダム本体工事の影響予測

- ・Cペアにおいて、ダムサイトから最も近くなる過去の既知営巣地を今後利用する場合、検討の結果、ダム本体掘削の一時期において、工事箇所から届く騒音が大きくなることが予測されるため、令和5年繁殖シーズンの行動圏及び営巣地の利用状況等を踏まえ委員へ相談し、令和6年繁殖シーズン以降のモニタリング調査計画、及びこのタイミングで馴化はできるのか、騒音の低減はできるのか、個別の環境保全措置の必要性等を検討することを報告し了解を得た。
- ・ダム本体掘削の期間中、掘削した土砂や廃棄岩を運び出すダンプトラックが仮設橋を通行する際に生じる騒音にも留意することとの意見をいただき、騒音の予測と影響の検討を行うこととした。